

熊本市住宅審議会 「暮らし」支援部会 議事録

日時： 平成 25 年 12 月 6 日(金)10:00～12:00	
場所： 熊本市役所 9 階会議室	
出席者：西委員（部会長）、平塚委員、日隈委員、竹原委員	
次第：1 開会	
2 報告	
暮らし支援部会の前回会議概要について	
3 議事	
熊本市住生活基本計画（仮称）の骨子（案）について	
4 その他	
6 閉会	
質疑：	
委員	障がい者の人数は増えているのか、率として増えているのか。また、この値は市営住宅のものか。
事務局	熊本市全体の値である。
部会長	障がい者が増えている理由があるのか。
事務局	高齢化が進んでいることがあると思う。市の合併の影響もあると思う。
委員	民間住宅セーフティネット事業は永遠に補助が出るものではないと思うが、なくなったときにどうなるのか。なくなった場合どのように要配慮者対策をやっていくのか。代替の補助（支援）があるのか。
事務局	国も単年度事業で取り組んでいるので、今後どうなるかははっきり見えない。
委員	今後どういう施策で要配慮者に入っていたか、補助なども考えなければならない。サービス付き高齢者向け住宅は補助制度続くと聞いているが、セーフティネット事業はどうなるかわからない。自分の会社でも事業を活用し、かなり入っていた。かなりいい政策だが、継続に不安がある。
事務局	国の制度がなくなっても施策は考えていかなければならない。高齢者居住安定確保計画では、高齢者の住まいを 2,300 戸確保する目標を設定した。今は 1,300 戸くらいある。セーフティネット住宅は 400 戸ある。同じ制度の住宅ではないが、あとは 600 戸で目標を達成する。国の制度がなくなっても施策がなくなるわけでない。別の施策を実施する。
委員	サービス付き高齢者向け住宅の建築は減っているのか。
事務局	若干減少傾向にある。最初が増えすぎたのだと思う。
委員	入居者集めに苦労していると聞いている。
事務局	今後、定期報告などを県と一緒に取り組むことを考えている。具体的な取り組みは来年度検討する。
委員	世帯と聞くと複数のイメージがあり、単身が抜けていると感じられる。
事務局	多様なという言葉に含まれている。
委員	世帯向け、単身向けという言葉を使わないか。
事務局	市営住宅の募集では、単身と世帯という分けをしていない。単身世帯、複数世帯といった使い方をしている。

委員	目標3が長い。「安心の暮らしを守る体制づくり」でいいのではないか。「緊急時」という文言は施策にも入っている。
部会長	セーフティネット事業でどこに住宅が供給されているかの場所は把握しているのか。どこに住むかで人付き合いも替わる。近所付き合いに不安がある中で、理由が分からないが、どこに住むかで不安が解消されるのか、付き合いを促進することで解消されるのか。
委員	近所付き合いは、不安だけでなく不足していると感じている人もいるのではないか。
委員	賃貸住宅では近所付き合いは殆どない。若い人は煩わしいと考えている人もいる。生活意識も年々変わっている。コミュニティの不足を理由に賃貸を解約する人はあまりいない。200万円以下の世帯が増えていることが、それへの対応が抜けている。どういった考えでセーフティネットを形成するのか。市営住宅のストック活用はあるが。どうやって低所得者が安心して暮らせるようにするのか。入居した後も所得が減ることがある。
事務局	住宅確保要配慮者のなかに低所得者も入る。今後施策を具体的に考えるときに含めていくことになる。表現として対象などは示していきたい。
委員	移住意向で定住意向が高いのは市内にいたいのか、今の家に住み続けたいのか。今の家に住み続けたいであれば、持ち家率が高いことが関係してくると思う。
事務局	今の家のことだと思う。持ち家のバリアフリー化や見守りが施策として入れていくことになると思う。
部会長	分からないという人が多く、不安が読み取れる。コミュニティや支え合う仕組みが重要ではないか。
委員	年齢によって違いがあるのではないか。年を取ると考え方も変わる。
委員	年齢の違いは情報の取り方も替わってくる。年寄りには市政便り、若い人はメルマガ、HPなど、年代によって分かれる。
部会長	施策2-1で、既存のコミュニティを活かすことが書いていない。大事にしつつ、新しい人が来たときにどうするのか、時代に合ったコミュニティをつくること、既存のコミュニティを守り支えるポジティブなことも入っていいのでは。
事務局	まちづくり部会にも関わってくるので、表現を含めて調整したい。
委員	施策1-2で市営住宅の管理の適正化で、管理が何か一般の方がわかりにくい。わかりやすい表現はないか。
事務局	一般に維持修繕することに聞こえるということか。
委員	じっくり読めば分かるが、一目見て分かる文言にして欲しい。
事務局	管理運営か。市民の方に伝わりやすい
委員	運営や運用ではないか。
事務局	検討する。
委員	目標の2-1で障がい者ではなく、障がいのある方にして欲しい。
委員	安心な暮らしの実現という小理念などで、暮らしはひらがなの方がイメージ的にやわらかい感じがする。
部会長	ひらがなが続くと目立たない、切れ目がないので漢字だと思った。
委員	漢字を使うと、日暮れといった、堅い、暗いイメージがある。
部会長	緑の部分も表現も「安心な生活」で「な」が入っていて表現が違うが。
事務局	特に意識したものではない。

部会長	目標の2と3を分けていいかという事前に相談を受けていたが、出すことで強調される。
事務局	目標2が普通、目標3は万が一の時という意味合いもある。
委員	大きな災害が起きると意識が高まる。出しておく必要があると思う。
委員	昨年の水害の際もボランティアが活躍した。ボランティアの登録の促進も重要。
事務局	今後の取り組みの中でも入れるが、施策にもボランティアも含めた表現にしたい。
部会長	支え合うの「合う」が漢字とひらがなが混ざっている。
事務局	統一する。
部会長	目標4で情報という同じ言葉が続く。発信体制にするなど。
委員	施策4-1は「多様な世帯のニーズ」ではなく「多様なニーズ」でいいのではないか。情報が必要なのは世帯に限らない。
事務局	他の部会でも熊本らしさ出すべきとでた。暮らしの中でも表現を盛り込んだ方がいいか。入れるのであればコミュニティの中だと思うが、具体的な表現を入れた方がいいか。
部会長	地方都市ならではの暖かいコミュニティがあると思う。それをどう表現するのか。
委員	施策2-2で構築はこれからつくるのか。新たにつくるのではないので、今あるものを促進ではないか。
部会長	熊本の人には熊本のことが大好き。愛着があることがデータであれば。
委員	熊本という文言を入れればいいのか。熊本の良さを活かす、豊かな人間関係がある熊本など。
事務局	別紙に熊本らしい暮らしをまとめると言うこともあるかもしれない。
部会長	福岡の人が見れば、福岡の施策に見えてしまうかもしれない。熊本らしい施策になるといい。
委員	目標4は「誰の目にも届く暮らしの情報発信」でどうか。情報という言葉が1つで済む。
委員	視覚障害のある方にはどうか。
委員	「誰にでも届く暮らしの情報発信」ではどうか。
部会長	熊本らしさをどうするか。熊本と言えば資源として水があるが、他の部会で出そうか。
事務局	他の部会で確認したい。
事務局	まちづくり部会は水などテーマになるので出てくると思う。
委員	人情味があるなど。最初はとっつきにくいですが、一旦入ると人のよさが出る。
委員	他県に比べてキーワードとなるような、突出している特徴があるか。
委員	物価は安く、暮らしやすさがある。
事務局	医療は進んでいる。医療の話は安心にも繋がる。
事務局	政令市で出生率が1位。熊本市は人口を維持する施策に取り組んでいる。
委員	子育てしやすいということではないか。
部会長	同居できる親も居る
委員	文化的な面で、教育機関や情報公開も暮らしやすさにつながる。
委員	教育機関があり若い人がいると活気がある。
事務局	基本理念はいいと思っている。自分の家を継いでいく“住み継ぐ”もいいと思う。
委員	熊本市で子育ての何かがあるか。益城は助成に力を入れている。
事務局	周りの市町村に比べて少し遅れているかもしれない。
委員	シングルマザーに対する取り組みは、他都市と違って、熊本はすすんでいる。熊本のよい

	ところを発見してもいいのではないか。
部会長	ネガティブなデータを多い。ポジティブなデータから強みを押すことも考えられる。
委員	HP で見てもらって熊本はよいところであることしてもらおう。福島から移住してきた人になぜ選んだか知りたい。
委員	賃貸で転居した人にアンケートとっても面白い。
部会長	強みがあるデータから、文言に盛り込んでどうか。

以上